

あれから3年

今日3月31日で、名古屋市立大を定年退職して3年がたつ。なんだか、「あの日」のことが思い出される。



写真は6階研究室ベランダから撮った。あの日風が強かった。当時「マイブック」に短めの日記を書いていた。それを書き写してみよう。

— 先ほど本部にて辞令と名誉教授の称号を授与された。これで退職である。35年の「教員生活」に別れを告げる。教職員の皆さんに「別れのメール」を送ったが、すぐに石川洋明さんなどから返信をもらった。

風は強いが晴天となり、桜も満開となった。一抹の寂しさを感じるが、人生の新たなスタートの日として、この日を記憶にとどめたい。明日から、どのように生活するか。やり残した仕事、やらねばならない仕事を「スローペース」で進めていきたいとメールに書いた。とにかく健康で前向きに。……

石川さんからの返信メールにこう書かれていた。「先生には、本当にお世話になりました。何度感謝しても感謝し足りません。いろいろと、どうもありがとうございました。私もやり残した仕事を進めていこうという立場ですが、スローペースが許されるかどうかは神のみぞ知る、です。先生の実り多い今後の研究生生活を期待しております。どうかくれぐれもお体にはお気をつけておすごしください（病気は私だけで十分です）。またお会いできる日を楽しみに待っています。」

石川さんは、この3カ月後に亡くなった。お通夜と葬儀の際に、このメールコピーを何度も読み返した。あれから3年たって、彼の「期待」に応えているのだろうか。石川さんのおかげで、退職後の7月末から毎朝「レポート」を書いてきた。かれこれ960本になるだろう。半年や1年と「節目」ごとに、退職後のことなどを回顧してきた。

今回の3年という節目は、ひとつの区切りになる感じだ。退職前の最後の年に講義をした学生が卒業した。私の「最終講義」にも何人か来てくれた。引越し作業が終わった研究室で、何人かと語り合ったこともある。卒業したある学生からメールが届き、寒い「ダジャレ」のことも書かれていた。

こうして顔見知りの学生もいなくなり、教員もかなり入れ替わった。なんだか寂しくなる。これも「時の流れ」なので、しかたがない。この3年で学び、蓄積してきたことも多くある。どんどん発信していかななくては。さあ、明日からは4月だ。

(2017年3月31日)